

## —2018 年度難関思考力入試問題解説—

本校では「Only One for Others」の教育モットーとし、次のような人財育成を目標としています。「自分の賜物を大切に、大海へ飛び出せる」「異文化でも他者を認め、共に協働できる」「社会課題を理解し、自分事として探究できる。そのために必要な探究力・思考力・コミュニケーション力が身についている」です。その目標達成に向けて、学校内のリーダーとなりうる力を入学前に評価したいと考えて出題しています。

そのために、「社会課題へ関心を持っている」「複数の立場で思考することができる」「創造的に工夫し、試行錯誤することができる」「協働して学習することができる」を評価しており、以下の手順・形式で評価しています。

【問1・2】文章やグラフから情報を抽出し、比較分析することができる

【問3】音声情報を聞き取り、情報抽出～整理することができる

【問4】上記より課題を発見し、その解決に向けて試行錯誤して作品をつくることができる

【問5】作品を文章で説明することができる

【問6】1～5を客観的に省察し、自分事として考えることができる

【面接】作品を口頭で説明し、困難な質問に対してあきらめずに考えることができる

また、ペーパー試験では測りにくい力を評価しているため、採点は受験者1人に対して採点者6人がルーブリックにて得点評価をしています。

問題のテーマは「高齢化時代における医療」「人工知能による利便性と倫理観」についての出題でした。問1は「高齢化社会」「医療問題」に関するデータや資料を読み取る問題でしたが、よくできていました。問2は「医療を受ける側」「医療を行う側」で問題点を整理する出題でしたが、問1はできているのに問2のような比較分類問題を苦手としている受験生が多かったように思います。また、問3では「人工知能の可能性とリスク」について音声情報を聞きメモを取る問題でしたが、メモの取り方に大きな違いがあり、必要な情報を抽出できている受験生とそうでない受験生に分かれていました。

問4は「高齢化時代における医療問題を、人工知能をつかってどう解決するか？」という問題でしたが、自分で課題設定することのできた受験生がブロック作品の創作にもつなげることができていました。ここで大きな得点差ができていました。問4のできた受験生は問5も全体的によく書けていました。「まずは手を動かしてブロック作品をつくることで、言葉が出しやすくなる」という我々の目的は正しかったと再確認できました。

問6は「人工知能の使い方に対して人間の果たすべき役割」を記述する問題でした。受験生にとっては難易度の高い問題でしたが、高得点をとっている受験生もいて我々も驚きました。また、他人の作品を見て自分の作品を改善する省察力・客観性も評価しましたが、得点差が大きく開く結果となりました。

面接では、多くの受験生が自分のつくった作品を上手に説明していました。また、状況設定を変えるような質問をしたところ柔軟な発想で返答してきた受験生もいて、高く評価させていただきました（例えば、自宅でも手術できるようなロボットを作ることはできませんか？という質問をしたところ、「公園に公共無菌室をつくり、そこで手術できるようにする」と回答し、その発想の転換に我々も大変驚きました）